

第2回「北洋材利用に係る意見交換会」の概要について

1 日時 平成20年8月20日(水) 16:00~18:00

2 場所 農林水産省 共用第10会議室

3 議事

○ 北洋材利用の現状と課題に対する今後の取組

- (1) ロシア丸太輸出税に関する最近の動きについて
- (2) 北洋材利用の最近の動きについて
- (3) 今後の対応方向について

4 出席者の主な発言内容

○ 原木調達について

- ・ロシア国内では、伐採量が減少しており、北洋材の原木調達は困難な状況になる。このため、日本の北洋材輸入量は大きく減少すると見込まれ、国内市場が混乱しないよう、代替材での供給が重要となる。
- ・丸太輸出税率が80%に引き上げられると、北洋材製材メーカーは原木挽きでは採算が合わなくなる。既に、原板挽きへのシフトが進んでいるが、国産材利用に転換している地域もある。国産材への転換には、安定的な原木調達が重要な課題。
- ・国産材の安定供給に向けては、既に合板用原木の広域的な供給などが進んでいる状況。広域的かつ継続的な供給のためには、供給側と需要者側の間で、採材、検知(検収)、支払い方法等共通のルールが必要。
- ・地域によっては、急激な木材需給の変化が発生している。資源状況を踏まえた検討が必要。関係者による話し合いの場を持つことも重要。需要側としても、資源の保続が大前提。

○ 加工施設整備、技術開発等について

- ・北洋材製材メーカーは、規模縮小や設備廃棄等に伴う資金の手当てが必要であり、金融支援が必要。
- ・国産材への転換には、加工施設の変更が必要。施設の変更や廃棄、経営が軌道に乗るまでの資金に対する支援が必要。
- ・合板メーカーは、これまでも様々な樹種転換に対応してきた。現在、スギ等国産材の利用を増やしているところであるが、更なる利用拡大のためには、技術開発や新製品の開発に対する支援が必要。

○ 需要拡大について

- ・住宅着工減で需要が大きく減少しており、木材産業低迷に大きな影響を与えている。需要を拡大することが重要。
- ・木材需要の主体は住宅利用。200年住宅等木造住宅への利用など需要拡大を進めてほしい。